



株式会社 ファルマ

弘前市北横町 19-1
Tel 0172-37-6016(代)

発行：編集委員会
印刷：小野印刷

■ 第 106 号 ■

さようなら原発・核燃青森集会

弘前調剤センター 薬事課 鈴木 菜夏



県庁までデモ行進

3月6日(日)青森市のリンクステーションホールで『さようなら原発・核燃青森集会』が開催され、各地から約800人が参加しました。

主催団体共同代表の大竹進医師が開会挨拶をし、基調報告では同じく共同代表の浅石紘爾弁護士から、原発や使用済み核燃料の再処理事業の現状と問題点に触れ、使用済み燃料は再処理なしに直接処分し、再生可

能エネルギーを拡充すべきであるとお話がありました。

続いて、函館市の大間原発訴訟の会からは中村司さん、むつ市の原発核燃をなくす下北の会からは櫛部孝行さん、大間町の大間原発に反対する会からは奥本征雄さん、六ヶ所村の花とハーブの里からは菊川慶子さんなど4つの団体の代表者が運動方針や活動内容を報告しました。



今回はパンダ・レンジャーを含め 24 名の参加!!

原発核燃をなくす下北の会の櫛部孝行さんは「地域経済の衰退に歯止めをかけるため、原発マネーに頼るのはよくない。いまの避難計画は実効性がない」と訴えました。

そして、主催団体共同代表の鳴海清彦さんの閉会挨拶のあと、デモ行進が行われました。ファルマから24名が参加し、グッズを持ちたりパンダや着ぐるみを着たり、1時間ほどシユプレヒコールをあげながら青森市内を歩きました。かなり的人数でデモ行進ができたので良いアピールになったのではないかと思います。

私が一番印象に残ったのは1日目の分科会です。「被爆者とともに」被爆体験と被爆の実相、核兵器をというタイトルで行われ、マーシャル諸島で被爆した方や、広島や長崎で被爆した方のお話を聴くことができました。被爆者の実体験を聴き、より一層核兵器廃絶への思いが強くなりました。また、これだけ長い間多くの人を苦しめた核の怖さを改めて実感し、核兵器が無くなるまでこの問題は



久保山愛吉さん墓前祭

2月29日(月)〜3月1日(火)の2日間静岡で行われた「3・1ビキニデー」に参加しました。1日目は日本原水協全国集会・全体集会と分科会、2日目は献花墓参平和行進と久保山愛吉さんの墓前祭がありました。

3・1ビキニデー

弘前調剤センター 薬事課 鈴木 菜夏

続くものだと感じました。被爆者は何も悪いことをしていないのに、まるで罪を犯したかのような気分させられ、それを隠して生きなければならぬ状況に憤りさえ感じました。

被爆者の平均年齢が80歳をこえた今、これからは体験していない世代が後世に伝えていかなければならなくなるので、どのように伝えていくのが大事になってくると感じました。

今回の集会では日本だけでなく海外の方の発言がありました。核兵器を無くしたいという思いは世界共通だと学びました。一日でも早くその日が来ることを期待して、私も声をあげていきたいと思いました。



参加者の皆さんと(左から3人目鈴木さん)

ファルマ法人制度 教育学習会

弘前調剤センター 薬事課 佐々木 良太



講師の石田久弘前市議会議員

2月9日(火)、当社会議室にて「ファルマ法人制度教育学習会」が行われました。今回は弘前市議会議員の石田議員が医療・介護・社会保障を、現在の弘前市の情勢と絡めて、ご説明して下さいました。現在進められていく箱もの建築にかかる費用はいったいどれくらいかというクイズが3問出されました。その中には弘前市

ファルマ在宅推進委員会 研修会に参加して

弘前調剤センター 薬剤師 須藤 雪絵

2月17日(水)に弘前調剤センターで行われた「ファルマ在宅推進委員会研修会」に参加しました。まず初めに佐藤真由美薬剤師よりファルマーツ薬局で実施している往診同行について発表がありました。薬の用法変更の提案で施設職員の薬を服用させる負担の軽減や、患者様の薬の量を減らすことができ、他には医師へ専用の連絡書を使用して次回処方時に必要な薬の情報提供をする等往診同行を始めてから改善した点を教えていただきま

した。続いて相馬薬局長より、傾聴とポリファーマシーについて発表がありました。傾聴技法の受け止め方や返し方を学びながら普段の傾聴態度を振り返り、改善すべきところを考えました。ポリファーマシーでは、何種類も薬を服用中の患者様に薬剤師が関与することで不要な薬を減らす提案ができるため、副作用



グループでロールプレイ中

や相互作用等の知識が必要であるとロールプレイを行って学びました。今回の研修会に参加して普段の仕事内容を振り返り、今できることは何かを考えながら仕事をしていきたいと思いました。

の球場増改築も含まれており、その費用はなんと30億円もかかるそうです。私は野球をする身ではありませんが、弘前市は保険料も高く、福祉の面でも全く市民を考えない政策で、こんなところにお金をかけるより、使うべきところが他にあると思えました。また、安倍首相の行おうとする政策の怖いところを改めて学びました。それは正規雇用より非正規雇用の割合が非常に高くなっていく現在、就職に困っている人の数はどんどん増えていきます。さらに進学する際、学費が高く奨学金を借りなければならぬ学生も増えていますが、返す為の環境、職

場がないというのが現実です。そんな人たちが増えることをいいことに、行くあてのない人を自衛隊へ誘導するような援助策が出てくる予想されます。これはアメリカの現状と似かよっています。そのようなことは絶対に認めてはならないと思いました。今回参加して低所得、高齢者など生活に苦労している人をさらに追い込んでいく弘前市、安倍首相のやり方を改めて学び、やはりおかしいと思いました。このことを一人でも多くの方に気付いていただき、共に声をあげていけるよう今後の活動も積極的に参加していきたいと思えます。

2016年2月20日(土)東京都にある全国教育文化会館で行われた憲法闘争学習会(全国から200名)に参加しました。学習講演では名古屋大学名誉教授の森英樹先生が、2012年から行ってきた自民党の戦争法への道のりを中心にお話されました。お話の中で印象に残っているのは、『首相の改憲発言がそもそも憲法違反!』ということでした。99条で「公務員の憲法尊

2・20

憲法闘争学習交流会

本部 主任 鈴木 健仁

重擁護義務」が示されており、首相もその義務を負うのが当然です。国会、国民を無視した発言をしていることに首相自身も気づいているのか、疑問です。私たちがしなければならぬのは、今まで政府が国民にしてきたことを、忘れないことと運動を継続していくことだと思います。

接遇セミナーに参加しよう

弘前調剤センター 薬事課 中西 将太

3月2日(水)、ファルマ事務委員会主催「接遇セミナー」が行なわれました。本部の阿部主任を講師に、名刺交換や言葉遣い、電話応対等、ビジネスマナーの基礎を学びました。中でも電話応対では、様々なシーンでの応対方法を学ぶことができました。私自身、電話に出た際の応対は、勉強しなければならぬと感じていましたので、すぐにでも活かし、丁寧な応対を身に付けなければならぬと思えました。電話を受け取った職員、



事例を使ってグループでの電話応対

挨拶をした職員が、会社のイメージの代表になります。その職員が失礼な態度をとってしまった場合、会社全体のイメージダウンに繋がってしまうのです。決してそのようなことがないように、日々の業務での応対、態度に気を付けると共に、イメージアップに繋がる接遇を目指すための大変良い機会になりました。



しんぶん赤旗1面にファルマから参加した3名が掲載されました

2015年度

青森県民医連学術運動交流集会

3月13日(日) 青森県総合社会教育センターで開催された「県連学術運動交流



発表する工藤課長(右端)

【口演発表】

「病薬連携による疑義照会ルール策定の取り組みについて」
弘前調剤センター 主任補佐 阿保 香織

【ポスター発表】

「ケアカフェというトーク型地域活動からみえてきたもの」
藤代薬局 薬局長 相馬 渉

「患者様アンケートによる生活実態調査
～支払困難患者様増加要因を探る～」
弘前調剤センター 課長 工藤 敏子

「統一会計基準推進士アンケートから見えた
課題について～養成と継続学習～」
取締役総務部長 崎野 修

「医学生対策における取り組みと課題」 本部 齊藤 駿介

「保険薬局における残薬調整による医療費削減に与える効果」
弘前調剤センター 薬剤師 菊池 紀子

「患者様に寄り添う接遇を目指して」
本部 主任 阿部 千佳子

集会」に参加しました。

県連各法人から267名の参加があり、6つの分會での発表された全71題の演題発表と、青森県民医連伊藤真弘会長による講演「地域に広げよう・ヘルスプロモーション」がありました。ファルマからは7名の職員による演題が発表されました。

数ある演題の中、第5分會で藤代薬局の相馬渉薬局長による「ケアカフェ」の取り組みについての発表が「ソーシャルキャピタルおせっかいおばさん賞」と、第6分會



見事受賞された相馬薬局長(左)

で弘前調剤センター薬事課工藤敏子課長による「患者様アンケート」の取り組みについての発表が「スタッフいっばい関わったで賞」を受賞しました。

どちらもユニークな名前ですが、民医連らしさあふれる大変素晴らしい賞だと思いました。

閉会の挨拶にあった「地域での必要性を実感できる集会」という言葉どおり、たくさんの民医連らしさあふれる取り組みについての発表を聴き、私もそれを実感することができました。

たくさんのスタッフと共に、少しおせっかいな位、地域の方の生活と健康のために、私ももっと色々なことに取り組んでいきたいと思いました。

本部 樋口 友里

青森県

地域医療構想説明会



2月3日(水)、県庁舎で行われた県社保協主催の「青森県地域医療構想(試案)説明会」に出席しました。当日は社保協会長の大竹進医師、安藤県議や村川青森市議を含め、総勢12名が出席し県側の説明を受けました。

私は、特にベッド数削減の部分に注目し説明を聞いたのですが、地方紙にも報道された通り、津軽圏域では平成26年の入院ベッド数は3,391床から平成37年には3,139床へ削減する構想であるといっています。

この構想は、青森県全体で人口減少、団塊の世代の高齢化を迎えるために「将来のあるべき医療体制を実現するための施策」であり、国が示す必要病床数の推計方法であり計算に間違い

本部 次長 館田 総子

いはないとの説明でした。地域別の削減するベッド数は、在宅医療にシフトする構想だそうです。

しかし、全ての回復期や慢性期の方が退院して直ぐに在宅医療を受けられる体制ではないのが青森県の現状です。介護施設等が少ない地域では、自宅で家族が介護することが当たり前であり、国が示す必要病床数の推計方法で絶対的に不足し、今後

2月27日(土) 弘前市民会館にて「さようなら原発・核燃弘前集会」が開催されました。講師は福島県浪江町「希望の牧場」代表の吉沢正巳氏でした。

吉沢氏は講演中、写真を参加者に見せながら、福島第一原発事故の当日や福島の様子をお話しました。その中でも特に胸が詰まったのは「帰宅困難区域の方は生きていくうちに自宅に帰れないが、亡くなってからもお墓に帰ることができない」という言葉でした。事故のために故郷を奪われた方の悲痛な想いが溢れる言葉だと思いました。吉沢氏は日本人の特徴として、熱しやすく、冷めや

微増しか見込めない状況では、目指す在宅医療の提供は難しいと大竹医師も発言しました。

自分が在宅医療を受けることになった時、家族がいない・施設にも入れない・頼る人がいない、つまり必要な医療が受けられない時代がやってくるのではと、心配をする方は多いのではないのでしょうか。国や県、自治体が責任をもって、切れ目のない医療と介護のサービスを提供すべきだと改めて感じました。行政は県民・市民の声を聞き、地域の現状を無視せず命を大切にす青森県を目指すことが「短命県返上」ではないのでしょうか。

いいのでしょうか。もう一度あの大きな事故が起こってもいいのでしょうか。次の事故は私たちが住む青森県かもしれません。



講師の吉沢さん(右端)と

わたしのお気に入り

藤代薬局 伊藤しのぶ

最近の伊藤家の朝ごはんは「菌」と「生姜」がお気に入りです。和食が基本で白米・お味噌汁・納豆・魚、食後にヨーグルトの組み合わせ。ヨーグルトの乳酸菌は善玉菌の一種で悪玉菌が有害物質を作り体に悪さするのを阻止し、腸の中を酸性にし、腸内環境を良くするといわれています。複数の違う種類の菌を摂ることで相乗効果がありお互いをエサに活動を活発にします。ビフィズス菌、ガセリ菌等々、メーカーにより菌が違うので色々変えてみるのもよいようです。納豆菌は発酵食品の中でも優秀選手で、ヨーグルトと納豆のコラボは最強です。納豆にキムチを加えらるとなおパワフルで、カルシウム摂取に効果があるといわれています。

そして生姜！血行を良くし身体を温めてくれます。なかなか食べ辛いですが、なんとヨーグルトにとても合うのです。伊藤家では播り生姜にはちみつ、お酒を少々入れ、電子レンジで1～2分熱を加え、冷ました物にリンゴ+ヨーグルトを混ぜて食べます。とても爽やかな風味です。うそじゃないですよ、藤代薬局の皆様を試食して



ある日の伊藤家の食卓

もらい好評を得ております。ちなみに味噌汁は、血压高めの私は塩分を抑えるために味噌を少なめにし、コクを出すのに酒粕を少々入れています。騙されたと思って一度試してみてください。

初めまして。ファルマ一ツ谷薬局で2月から働かせていただいております。前職では事務職と販売職を経験させていただきました。調剤薬局事務の仕事は初めてなので、皆様にご迷惑をかけることも多々あると思います。先輩方からのご指導をいただきながら少しでも早く仕事を覚え、株式会社ファルマの一員として頑張っていきたいと思っております。これからよろしくお願いたします。



ファルマ 一ツ谷薬局 小野 綾華

新人紹介

県連薬剤師 拡大管理者研修に参加して

黒石薬局 薬局長 木村 匡宏

2月27日(土)浪岡中央公民館にて約25名の参加で薬剤師拡大管理者研修が開催されました。『全日本民医連薬剤師政策』の完成を受け、現在作成中の『青森県民医連薬剤師政策』のさらなる充実と仕上げのための議論をし、参加者で県連版薬剤師政策について深く共有し青森県連の薬剤活動をさらに発展させることを目的として行われました。

つこの視点とめざす5つの目標、【4章・民医連薬剤師の現勢と後継者確保の課題】、【5章・民医連薬剤師の研修】、育成について各章担当者から説明があり、各章についてグループ討議がされました。討議報告ではどの班ももち時間を超えるほどの意見交換が行われたことがわかりました。様々な課題について深く討議することができ、普段何気なく行っている業務の意味について深く考えることもできた非常に有意義な時間でした。



グループ討議する木村薬局長(右端)と葛西孔明主任(右から2人目)

【岩手医科大学企業セミナー】

3月5日(土)岩手医科大学企業セミナーに、高松利昌常務取締役と弘前調剤センター須藤雪絵薬剤師が参加しました。当日はファルマに関心をもった学生がブースを訪れてくれました。



学生とお話している須藤雪絵薬剤師(右)

【弘前大学一般入試新歓行動】

2月25日(休)と26日(金)の2日間、弘前大学医学部の前期試験が行われました。それに合わせて一般入試新歓行動があり、25日は弘前調剤センター葛西孔明主任がチラシ配布、26日は本部樋口友里さんが対話アンケートの実施に参加しました。



寒い中、頑張りました(右:樋口さん)

【県共済ボウリング大会】

2月18日(休)弘前市Vボウルにて「県共済弘前地区ボウリング大会」が開催されました。今回は何と並み居る強豪を押しよせ、ファルマ一ツ谷薬局の須藤江利加さんが優勝しました！



ファルマの参加者の皆さん